

### 第三者評価結果

事業所名：にじいろ保育園磯子

#### A-1 保育内容

A-1-(1) 全体的な計画の作成	第三者評価結果
<p>A-1-(1)-①</p> <p>【A1】 保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて全体的な計画を作成している。</p>	a
<p>&lt;コメント&gt;</p>	
<p>・全体的な計画は、児童憲章、保育所保育指針を踏まえながら、子どもの発達や生活の連続性を考慮し、子どもの健全な育ちを中心に編成している。また、保育理念・方針・保育目標を土台とし、地域の実態に対応した保育事業と行事への参加、地域との関わりなどを考慮しながら作成している。</p> <p>・計画の作成は、関わりのある職員（園長、主任、フリー職員、調理、乳幼児職員）を中心に内容を検討しその後、職員会議で全体への周知を行っている。</p> <p>・計画の見直しについては、保護者アンケートの意見や職員の自己評価からの課題や充実させたい部分を取り入れ、全職員で話し合いや確認を行い、見直す箇所を赤ペンで書き入れるなどして次年度の指導計画や保育などに反映している。</p>	
A-1-(2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開	第三者評価結果
<p>A-1-(2)-①</p> <p>【A2】 生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。</p>	a
<p>&lt;コメント&gt;</p>	
<p>・室内にはエアコンが設置され、温度や湿度を調節して日誌に記録することで心地よく過ごせる環境作りを心がけている。また、定期的に換気を行い感染予防に努めている。</p> <p>・お掃除マニュアルに基づいて、手洗い場・トイレは、毎日手入れを行い、その都度のチェックを行い、職員による日々の清掃、安全点検(室内・外回り)、消毒のほか、業者委託部分など衛生面にも配慮している。</p> <p>・年齢、季節、子どもの様子などを見て、家具の配置、遊具の素材を選び子どもの動線や安全に配慮してコーナーを作りを行い、動きやすい環境に整えている。子どもが落ち着いたり、くつろげる場所として、衝立の利用、家具の配置による他の視線が気にならないスペースのほか廊下の一角も利用してその場に応じた対応ができるようにしている。</p> <p>・食事後の着替えなどを行い、サンシェード・レースカーテンを使用するなどして睡眠のための環境づくりを行っている。</p>	
<p>A-1-(2)-②</p> <p>【A3】 一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。</p>	a
<p>&lt;コメント&gt;</p>	
<p>・入園時に保護者に提出をお願いした児童票・健康台帳や入園児の個別面談からの情報を職員で共有し、入園後は子どもと職員の関わり、観察などを通して子ども一人ひとりの把握に努めている。</p> <p>・法人の保育方針である、みとめ愛（信頼）・みつめ愛（安定）・ひびき愛（共感）のもと、子どもの仕草や顔色を読み取り、声かけをして日々の関わりを大切にしている。</p> <p>・年齢によってわかりやすい言葉を選び、目線を合わせて穏やかに伝えるように心がけ、子どもに対して決めつけたりせず、ひと声かけて状況を見たり、見守り保育を行うようにして子どもの気持ちにそった対応に努めている。また、幼児は、時にはお互いを認め合える思いやりと優しさを感じて表現できるように援助している。</p>	
<p>A-1-(2)-③</p> <p>【A4】 子どもが基本的な生活習慣を身につけることのできる環境の整備、援助を行っている。</p>	a
<p>&lt;コメント&gt;</p>	
<p>・挨拶、姿勢、食事、排泄、着替えなど、基本的な生活習慣が身につくように、職員が率先して手本を示したり、絵本などをわかりやすく説明していく機会を作り、年齢や発達に合った援助をしている。手洗いやうがいは実践や、「ばいきんばいばい」、「ばいきんどうぶつえん」などの手作りの紙人形劇を用いた健康教育などを取り入れることで、子どもが理解できるように働きかけている。</p> <p>・基本的な生活習慣については子どもが出来たことを認め、褒めて、自信が持てるように関り、自分でやりたい気持ちを大切に待ったり、見守ったりして援助している。</p> <p>・排せつ習慣については、保護者との連携を大切に、子どものやりたい気持ちを待ち、無理強いすることなく毎月の計画の中に取り入れ一人ひとりに合った進め方を行っている。</p>	
<p>A-1-(2)-④</p> <p>【A5】 子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。</p>	a
<p>&lt;コメント&gt;</p>	
<p>・保育理念である、「人や物・自然との豊かな出会いや体験を通して生きていく力を育みます。」のもと、友だち同士で共同して遊ぶ姿を見守り時には援助して活動できるようにしている。また、一人ひとりの子どもが意欲や達成感が持てるように援助し、遊びが広がるように声かけをしている。</p> <p>・子どもが自分のやりたいことを自分で決められるように手の届くところ、目線の高さに合わせた低い棚に、玩具を置き、子どもが自分で取り出したり片付けたりが出来るようにしている。また、自分たちでゲーム遊びを考えたり、ブロックを使ったごっこ遊びなど遊びの中で体を動かして遊んでも危なくないようにコーナーを分けて遊べるように工夫している。</p> <p>・園庭での自然物への関わりや、園外での木の実ひろいなど自然と触れ合う機会を作り、自然物を使った制作などにも取り組んでいる。</p>	

<p>A-1-(2)-⑤ 【A6】 乳児保育(0歳児)において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	a
---	---

<コメント>

- ・同じ職員が関わる担当制にしてスキンシップを取りながら、愛着関係を形成して子どもが安心して過ごせるようにしている。また、一人ひとりの発達状況に合わせてコーナーづくりや部屋の移動を行い、安全に配慮している。
- ・触れ合い遊びを通して、話しかけたり、音を鳴らしたり、表情や喃語などから思いを感じとるようにしながら欲求や要求を受け入れ、一人ひとりに応答的な関わりをしている。
- ・月齢や一人ひとりの成長に合わせた玩具のほか、絵本や生活用具などは子どもの手の届く場所に配置し、自分で手にすることが出来るようにしている。また、保育室内はハイハイ、伝い歩きができるように、スペースを確保している。
- ・個別の連絡帳・送迎時に子どもの様子を丁寧に伝えて保護者と信頼関係を築き、24時間の生活リズムを整えられるように連携を図っている。

<p>A-1-(2)-⑥ 【A7】 3歳未満児(1・2歳児)の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	a
---	---

<コメント>

- ・子どもが自分でやりたい気持ち、意欲を大切にしながら見守り、さりげなく援助しながら出来た時に十分に褒めて自信や意欲に繋げている。
- ・園庭や公園に行く機会を取り入れ、園内外での探索活動を十分に行えるように環境を整備している。また、保育室内では、スペースを作ったり、廊下などを利用して子どもの興味、関心や発達に合わせて探索活動が十分に出来るようにしている。また、園庭の遊びなどを通して異年齢交流の機会を設けている。
- ・子どもの発達に合わせて玩具の入れ替え、遊びが広がるようにコーナーづくりを行い、全身を使って遊ぶ時には、けがに繋がる状況を予測して安全に配慮している。
- ・ごっこ遊びでの他の子どもとのトラブルなどの際は、相手の気持ちを伝えたり、仲立ちをしながら関係性を築いていけるよう援助している。
- ・個別の連絡帳、送迎時のやりとりなど保護者と連絡を取り合い、家庭との連携を深めている。

<p>A-1-(2)-⑦ 【A8】 3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	a
--	---

<コメント>

- ・集団遊びを取り入れながら、興味関心のある活動に取り組めるような環境を整えて、友だちと一緒に遊ぶ楽しさや充実感を味わえるように関わっている。また、じっくり遊べる環境作りを考え、遊びが友だちと関わりながら展開できるように支援している。
- ・集団の中で自分の力を発揮し、友だちと共に楽しめるようにゲーム遊びや大縄跳びなどの集団遊びを積極的に取り入れている。子どもが自分のことを主張したい気持ちを受容しつつ、安定して活動が出来るように声掛けや援助をしている。
- ・夕涼み会や、年長児童のみが参加するサマースペシャルデイなど自分たちでアイデアを出し合い、役割を考えて話し合い、一つのものを作り上げる協同的な活動を行っている。
- ・日々の活動や取り組みは写真などを掲示したり、園だより・クラスだよりで保護者に伝えている。活動内容などの掲示物は、クラスごとにファイルし、いつでも確認できるようにしている。

<p>A-1-(2)-⑧ 【A9】 障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	a
---	---

<コメント>

- ・子どもの状況に合わせた室内の環境づくりやバリアフリー化した園舎で、子どもが過ごしやすいように配慮している。
- ・特別な配慮が必要な子どもには、発達過程に合わせて個別支援計画を作成し、毎月の様子は、月間指導計画の個別配慮欄に記入して支援している。また、職員間でカリキュラム会議で話し合い情報を共有し、園全体での支援の取組を行っている。
- ・障がい個性と捉え、集団生活を共に過ごす中で、子ども同士の関わり合いを見守りながら互いを認め合い、育ちあえるように、座席や活動時の他の子との組み合わせなども配慮した環境づくりに努めている。
- ・保護者の送迎時には、一日の様子を伝えたり、一緒に考えてより良い方向に向えるよう保護者と直接話しをするなど、連携を密にしている。
- ・横浜市南部地域療育センターからの巡回訪問や民間の施設からの訪問や情報交換を行い、障がい児保育などの研修に参加して保育の質の向上に努めている。

<p>A-1-(2)-⑨ 【A10】 それぞれの子どもの在園時間を考慮した環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	a
--	---

<コメント>

- ・長時間保育では、少人数で遊べるように部屋を分けたり、コーナーづくりをして子どもがくつろいで安心して心地よく過ごせるよう工夫をしている。0歳児は0歳児の保育室で、関わる職員をなるべく固定して安心してゆったり過ごせるように配慮している。
- ・一日を通して、午前中での遊びが継続したり、日中に作った製作の続きを午後にも行うなど、子ども自らが遊びを継続して取り組むことができるような環境作りを行っている。
- ・夕方の補食の提供の際には、保護者の意向を踏まえ、量を調節したり、時間をずらしたり夕食に支障が出ないよう配慮している。
- ・保護者に子どもに関する伝達が十分に行えるように、引継ぎ用の伝言票を使って連絡事項は職員間で共有し、伝達漏れが無いよう赤ペンで記入するなどの工夫を行っている。また、担任から直接伝えたいことがある場合には、送迎時や連絡ノート、電話や手紙を使って直接伝えている。

<p>A-1-(2)-⑩ 【A11】 小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。</p>	b
--	---

<コメント>

・5歳児クラスの年間計画は、小学校との円滑な接続・連携の欄に計画を記載し、1年を4期に分けて就学に向かえるような活動を盛り込んでいる。  
 ・今年度は感染症対策のため行っていないが、通年は小学校訪問や学童児童の来園などで、子ども同士で折り紙をしたり遊ぶなどの交流を持つことで、小学校への見通しにつなげる機会を設けている。  
 ・保護者とは、個人面談を通し小学校以降の生活を見通せるような関わりや、話をしている。  
 ・幼保小連携の研修や会議に5歳児クラスの担任と園長が参加して情報交換を行っている。今年度は感染症対策のため行っていないが、通年は就学前には、小学校教諭に子どもたちの様子を見てもらいその後引き継ぎを行うなど連携を図っている。  
 ・保育所児童保育要録は、子どもの育ちや発達の状況を的確に記録するほか、一人ひとりの育ちをどのように援助してきたかを記入して小学校の生活がスムーズに行くように配慮している。

<p>A-1-(3) 健康管理</p>	第三者評価結果
<p>A-1-(3)-① 【A12】 子どもの健康管理を適切に行っている。</p>	a

<コメント>

・保育ガイドの中の健康管理マニュアルに基づき担任が朝の健康チェックを行い、看護師は全クラスを巡回して子どもの状態の把握に努めている。子どもの体調の変化や怪我などの際は、電話やお迎えの時に保護者に伝え、翌日の登園では、家庭での様子を確認している。  
 ・保健年間計画書は看護師が作成し、各クラスで共有して職員とともに健康教育を行っている。保護者には保健だよりや掲示板にて感染症の有無や、健康教育に関する写真の掲示などで取り組みを伝えている。  
 ・既往症に関しては、既往歴一覧表を作成し、全職員で共有し、予防接種に関しては一覧表を作成し、ファイルで保管していつでも確認できるようにしている。  
 ・SIDSチェック表を用いて呼吸の確認を行い、0・1歳児に対しては、乳幼児突然死症候群に関する手紙を配布し、入園時に市から配布される小児救急のかかり方ハンドブックも配布するなどの情報提供を行っている。

<p>A-1-(3)-② 【A13】 健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。</p>	a
--	---

<コメント>

健康診断は年2回、園医が健診し、歯科健診も年2回実施している。健診の結果については健康の記録に記載するとともに保護者の方へは書面で伝え、保護者の印鑑をもらうことで確認をしている。  
 ・健診前に、子どもの健康状態で気になることがあれば、保護者から内容を伺い、検診時に看護師が医師に相談して、アドバイスなどを保護者に伝えている。  
 ・健診結果は各クラスごとに記載し、ファイルして共有していつでも見れるようにしている。また、記録を通じてミーティングや会議で職員に周知している。  
 ・健康教育の一環として、手作りの歯ブラシや紙芝居を使っての歯磨き指導・手洗い指導・咳エチケット指導など子どもたちにわかりやすい指導などを行っている。

<p>A-1-(3)-③ 【A14】 アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。</p>	a
---	---

<コメント>

・アレルギー疾患のある子どもに対して、「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」をもとに園のマニュアルに沿って対応している。個別にアレルギー児個別対応シートを作成し、保護者と面談して確認を行い進めている。  
 ・アレルギー食提供における一日の流れのフロー図に基づいて、食事の提供をしている。テーブルを分けたり、雑巾の色分けをし、職員がそばについて安全面に配慮している。可能な限り同じ職員が対応し、アレルギーバッチを後ろ襟に装着し共有している。フロー図は災害時リュックにも入れ、避難先でも対応できるようにしている。  
 ・アレルギー児に対して受けた研修を研修報告として全職員と共有し、技術に対しても看護師の指導のもと行い事故防止に努めている。  
 ・他の子どもや保護者へのアレルギー疾患などについて理解を図り、園への食べ物の持ち込みへの協力を依頼する取り組みを行っている。

A-1-(4) 食事	第三者評価結果
<p>【A15】 A-1-(4)-① 食事を楽しむことができるよう工夫をしている。</p>	a
<p>&lt;コメント&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・栄養士は食育計画を作成し、年間計画に基づいて世界の料理・クッキング・郷土料理・食材さわり・三色食品群・行事食など取り組んでいる。</li> <li>・栽培計画については、夏野菜・冬野菜などを栽培して給食で提供し、収穫の喜びや食の大切さを学ぶ機会を設けている。</li> <li>・保育室を遊びのスペースと食事のスペースを分け、食事の前には絵本や紙芝居の読み聞かせを行い、食事時間の切り替えや落ち着いて食べる雰囲気づくりをしている。</li> <li>・職員は一人ひとりの食べる量を把握し、小食や好き嫌いのある子どもに対しては、盛り付けの時に量を減らしたり、食べにくいものは小さく切る工夫している。0歳児には、ミルクは個々のペースにあわせて与え「おいしいね」と優しく声かけしながら、信頼関係の構築に努めている。</li> <li>・玄関に給食・おやつ写真を展示し人気の給食レシピは、給食だよりに掲載し保護者が持ち帰り出来るようにして食生活について家庭と連携を図っている。</li> </ul>	
<p>【A16】 A-1-(4)-② 子どもがおいしく安心して食べることのできる食事を提供している。</p>	a
<p>&lt;コメント&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食事に関しては、毎月の給食会議や日々の喫食状況により、子どもの発達状況や体調によって食事の量やきり方を調整している。0歳児は、離乳の咀嚼の状況を確認しながら調理員・担任・看護師・主任・園長で話し合っ食材の切り方、硬さについて話し合い進めている。</li> <li>・調理員が食事やおやつの時間にクラスを回って子どもたちに声をかけ食事の様子を確認し、担任からは残食状況を聞いて、調理の工夫をしている。残食は戻ってきた給食でも確認し、給食日誌に記載し、残食の多い時には次のメニューのときに切り方や調理方法を変えるなどの次の調理に反映している。</li> <li>・旬の食材や果物を取り入れたり、七夕やクリスマス、ひな祭り等の行儀食の提供し、郷土料理や世界の料理、行事に関する料理などを取り入れている。</li> <li>・衛生管理マニュアル、給食の手引き、調理業務マニュアルなどを活用し、衛生管理や事故防止に努めている。</li> </ul>	

## A-2 子育て支援

A-2-(1) 家庭と緊密な連携	第三者評価結果
<p>【A17】 A-2-(1)-① 子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。</p>	b
<p>&lt;コメント&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・乳児クラスは個別の連絡帳で詳細に子どもの様子を記載し、保護者に伝えている。幼児クラスは、毎日クラスの活動を写真や活動内容を掲示板に掲示して保護者との共有に努めている。写真やクラス内容はクラスごとのファイルして保管し、いつでも確認できるようにしている。送迎時には保護者に家庭の様子を尋ねたりその日の子どもの様子を伝えて情報交換している。また、週1回ブログを更新して園の様子を伝えている。</li> <li>・コロナ感染予防で今年度は行えていないが、通年はクラス懇談会で保育理念や保育目標、1年間の保育について説明し保護者の理解を得るよう努めている。今年度は、園の取り組み内容をお手紙にて配布することで保護者との共有を図っている。</li> <li>・運動会や幼児クラスの「お楽しみ会」や全クラスでの夕涼み会などの行事で子どもの成長を発表する機会があり、保護者が子どもたちの成長を実感できるような取り組みを行っている。</li> </ul>	
A-2-(2) 保護者等の支援	第三者評価結果
<p>【A18】 A-2-(2)-① 保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。</p>	b
<p>&lt;コメント&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・連絡帳や掲示板の掲示で日々の保育中の情報を伝え、送迎時には必ず挨拶をしてその日のエピソードを伝えてコミュニケーションを取り、保護者との信頼関係を築くよう努めている。</li> <li>・保護者にはいつでも相談出来ることを伝え、希望があれば面談時間を調整し落ち着ける場所で話を聞けるようにしている。</li> <li>・保護者の就労や個々の事情に合わせて電話で相談を受けたり、内容によっては複数職員で話を聞き、相談内容は個別記録表に記載して、継続的にフォロー出来るようにしている。</li> <li>・保育士や調理師、看護師など専門性を生かしたアドバイスや支援を行い、相談の内容によっては磯子区福祉保健センターや横浜市南部地域療育センターなどと連携し、個々の状況に合わせて支援している。</li> <li>・送迎時に相談を受けた職員が適切に対応できるように、相談内容によって園長・主任から助言が受けられる体制を取っている。</li> </ul>	
<p>【A19】 A-2-(2)-② 家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。</p>	a
<p>&lt;コメント&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日々の送迎の様子から、保護者と子どもの関係を出来る限り把握し、看護師も朝、巡回して子どもの様子をチェックしている。子どもが着替える際には身体に不自然な傷やあざがないか日常的に確認を行い、気になる事を発見した際は、随時写真などで記録に残し、職員会議にて情報を共有し協議する体制を整えている。また、身体測定時・シャワー沐浴時での身体の状態・養育の状況の把握に努めている。</li> <li>・気になる子どもがいた際には、職員は看護師、園長に報告することが周知されており、職員会議などで職員間で検討協議し、必要があれば、園長を通して行政機関との連携を図っている。また、連携をとる流れをフローで事務所に掲示し迅速に対応できるよう整備している。</li> <li>・人権に関する研修は、外部講師を招いたり、職員間での研修を行い理解するための取り組みを行っている。</li> </ul>	

## A-3 保育の質の向上

A-3-(1) 保育実践の振り返り（保育士等の自己評価）	第三者評価結果
<p>【A20】 A-3-(1)-① 保育士等が主体的に保育実践の振り返り（自己評価）を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。</p>	a
<p>&lt;コメント&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年間指導計画や月間指導計画をもとに、さまざまな会議で互いの疑問点・改善点などを意見交換し、互いの学び合いや意識の向上に結び付けている。また、職員の自己評価、保護者アンケートの結果を反映し、次年度の取り組みや園全体の自己評価を行っている。</li> <li>・子どもの心の育ち・意欲・興味などをよく観察し、子どもが「できた」「できない」でなく次につながり、それを踏まえた職員の援助・関わり方が適切であるかなどを確認しながら自己評価をしている。</li> <li>・職員の自己評価は毎日、月ごと、年ごとと定期的に行い、園長面談や年度末に振り返りをする事で職員の自己評価を行っている。</li> <li>・職員の自己評価結果から明らかになった課題をまとめ、園としての課題とし、改善や専門性の質の向上に取り組んでいる。コロナ感染予防前には、他園の保育の様子を見たり、園で公開保育をおこない意見交換を行い保育実践の改善に努めている。</li> </ul>	